令和3年度小中英語パートナーシップ事業　推進地域実践報告（相双地区）

共通テーマ　「豊かな言語活動を通した、小中連携の授業のあり方～英語による発信力の強化を目指して～」

	拠点校Ⅰ （南相馬市立鹿島中学校）	拠点校Ⅱ （南相馬市立鹿島小学校）	協力校 （南相馬市立八沢小学校）	協力校 (南相馬市立上真野小学校)
次年度への展望	○　単元を見通した指導計画とALTやICTを効果的に活用したパフォーマンステスト等の実践及び評価の工夫を行う。	○　英語を使う必然性が高まる「目的・場面・状況」設定の工夫 ○　既習事項を用いて会話を続ける力を伸ばすような帯活動の研究	○　英語を使う必然性が高まる「目的・場面・状況」設定の工夫 ○　協力校同士での外国語交流授業の継続実施	○　英語を使う必然性が高まる「目的・場面・状況」設定の工夫 ○　協力校同士での外国語交流授業の継続実施
取組を振り返って	○　帯活動で、小学校のグループトークの発展的活動として、スモールトークを取り入れ、「聞く」、「話す（やり取り）」の表現の幅を広げることができた。	○　帯活動の定期的なスモールトークを実施した結果、相手意識を持って、会話を続けようとする力を少しずつ身に付けてきた。	○　ICTを効果的に活用したり、上真野小との交流授業に参加したりして、相手意識を高め、自分の思いを伝え合おうとする態度が身についてきた。	○　ICTを効果的に活用したり、八沢小との交流授業に参加したりして、相手意識を高め、自分の思いを伝え合おうとする態度が身についてきた。
課題に対する具体的な取組	○　CAN-DOリストを自己評価、振り返りにも使用し、その際タブレットを使うことで、英文を使って反省を行う生徒が増えた。	○　日常生活や他教科に関連する話題について、使用する言語材料を指定せず、グループ（ペア）トークすることで、興味のあることについて会話を続けたりあいづちをする児童が増えた。	○　少人数ならではの個別指導を生かし、ALTやICTを効果的に活用しながら英語を使う必然性を高める場面設定を工夫することで、楽しんで会話をしようとする児童が増えた。	○　ALTやICTを効果的に活用しながら、英語を使う必然性を高める場面設定を工夫することで、楽しんで会話を続けようとする児童が増えた。
年度当初の課題	●　自分で話したことを、書いて伝える力を伸ばしたい。	●　ALTや友達との英会話を続ける力に乏しい。	●　相手意識が低く、友達の前で話したり、英語でコミュニケーションを図ったりする力に乏しい。	●　ALTや友達との英会話を続ける力に乏しい。

推進地域の重点的な取組

○　昨年度に引き続き、中学校と連携した互見授業の実施と、小中連携を見通した小学校版CAN-DOリストの作成・整備

○　ICTを効果的に活用した言語活動の実践及び評価の工夫